

令和4年度 事業報告書

4.1.3.2 建設業部会

- 1) 事業活動計画、及び事業活動結果について審議・承認し、計画に基づき活動した。(三役会 10 回、部会 2 回開催)
- 2) 生産性向上、品質確保、及び環境保全をねらいとした「人づくり」、「場づくり」として、次の活動を行った。(機電技術者交流企画 WG 9 回)
 - ① 機電技術者の交流・育成に資する「場づくり」を行った。
 - イ) 第 24 回機電技術者意見交換会の 10 月開催を検討したが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より開催は見送った。
 - ロ) 10 月 19 日に「交流の場」として「2022 年機電技術者のための講演会」を実施した。講演内容は「3D デジタル技術が拓く映像体験の拡張と未来」(NHK エンタープライズ)、「DX Smart Construction の次なる挑戦」(コマツ) の 2 題で、直接参加+WEB 方式とした。(出席者 116 名、うち WEB 参加 92 名) 講演会報告を、機関誌 (3 月号) に掲載した。
 - ハ) 「育成の場」としての若手現場見学会を新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からリモート現場見学会として 9 月 27 日に谷沢川分水路工事 (安藤ハザマ・東鉄・京急建設共同企業体) で開催した。参加者は 107 名 (直接参加 6 名、WEB 参加 101 名) であった。アンケート結果他を機関誌 (12 月号) の部会報告ページに掲載した。
 - ニ) 「建設業界 (機電職) 就職活動用ガイド」の 2022 年改訂版を作成し、2 月 13 日より販売を開始した。
- 3) 建設機械の事故防止に資する諸活動を展開した。(クレーン安全情報 WG 6 回)
 - ① クレーンの事故・災害事例の収集を行い、情報の共有と事例研究を実施した。メンバー各社より情報 (ネット情報含) を持ち寄り討議した。
 - ・ラフテレーンクレーンのモーメントリミッター設定について、ジブ折損事故を受けて、設定方法の対策を検討した。
 - ・ロープ掛本数登録間違いによる転倒事故を受けて、メーカー対策情報を共有した。
 - ・クローラークレーンメインブーム接続ピンの抜けとめピン破断について、発生状況及びメーカーの対策の情報を共有した。
 - ・「移動式クレーン、杭打ち機等の支持地盤養生マニュアル」の問合わせに対応した。
 - ② 「安全教育テキスト」の改定に向け、クレーン安全教育の実施状況を確認した。
- 4) i-Construction 施工の普及と ICT 施工の安全に資する活動を行った。(建設業 ICT 安全 WG 5 回)
 - ① 建設機械メーカー、広域レンタル会社などの ICT による安全対策製品の市場動向を調査するためにアンケートを実施した。次年度も継続して行う予定である。
 - ② 「建設機械施工の自動化・自律化協議会」に参画し、情報を共有した。
- 5) 機械部会主催の合同部会が 2 月 28 日に開催され、建設業部会からは 105 名が参加した。